



Child's
DREAM
COME TRUE

「キャプテン翼」ボールはともだちプロジェクト」から受け取ったボールを手にする子どもたちとシネット

支えられた経験が、次の誰かを支える力に

現在、ワールド・ビジョン（WV）カンボジアの地域開発プログラム・マネージャーとして、子どもたちや地域の人々を支えるシネット。その原点は、かつて彼自身がチャイルドとして支援を受けた経験にあります。

幼少期は、カニや魚を捕まえ、草を刈り、田んぼで両親を手伝う日々。学ぶことは、身近な選択肢ではありませんでした。

転機は8歳のとき、チャイルド・スポンサーシップの支援を受け始めたことでした。当時のスタッフの「勉強を続ければ、家族や地域の力になれる」という言葉は大きな励ましとなり、また、チャイルド・スポンサーから届く手紙は、遠くにも見守られているという安心感となって、シネットを支え続けました。

「一生懸命学ぼう」——その決意を胸にシネットは勉強を続け、WVが行う様々な活動にも参加。少しずつ自分の考えを伝える力や自信を育てていきました。同時に、水や衛生環境の整備などにより、地域の暮らしも大きく変わっていきました。



自身がマネージャーを務める、ボレイ・チュルサール地域の子どもたちとともに

その後、努力を重ね、念願の大学への進学を果たしますが、家庭の経済的な事情で退学を余儀なくされます。将来への道が途絶えたように感じる中、シネットはWVで働く機会を得て、支援者の想いに触れます。「どんな状況でも人は支え合える」という気づきが、再び前へと進む力となりました。

現在は、支援地域で子どもたちや家族に教育や水、保健などの支援を届ける活動チームを率いるシネット。かつて支えられた一人のチャイルドが、今では支える側として歩み続けています。

あなたも、子どもたちに喜びを届けませんか？

チャイルド・スポンサーシップのお申し込み、また、チャイルドをもう一人ご支援いただける方は、お電話またはWEBからご連絡ください。

▶ 電話でのお申し込み **03-5334-5351**
(平日10:00-17:00)

▶ WEBからのお申し込み

公式 SNS でもチャイルドのストーリーや支援地域の様子を発信中！ぜひフォローしてください。

Facebook @worldvisionjapan

X @WorldVisionJPN

Instagram @worldvisionjapan

LINE LINE



中東危機

子どもたちの命と未来を守る
トラウマの連鎖を断ち切るために

207
2026年夏号
ワールド・ビジョンニュース

中東危機

子どもたちの命と未来を守る トラウマの連鎖を断ち切るために

2月28日以降の情勢の急激な悪化を受けて、中東全域で暴力が拡大しています。いま、4500万人の中東地域の子どもたちが、命の危険にさらされています。



シリア北西部で、紛争で破壊された自宅の前にたずむ子どもたち

紛争下に生きる子どもたち

今回の情勢悪化の前から、中東地域では、半数の子どもたちが紛争の影響下で暮らしていたことを忘れてはなりません。脅威は直接的な戦闘だけではなく、栄養不良や、安全な水や食料の不足もまた、子どもたちの健やかな成長と未来を脅かします。さらに、教育の中断、児童労働、児童婚のリスクの増加など、長く影響を残す課題の深刻化も懸念されています。

シリアでは10年以上、他の国でも数年にわたる紛争がすでに起きていました。シリアの人口の90%が貧困ライン以下の暮らしをし、650万人の子どもが緊急の栄養支援を必要としています。ヨルダン川西岸地区やガザ地区の子どもたちは、壊滅的な人道危機の中で、避難できる安全な場所もなく、かつてないほどの困難に直面しています。いま新たな危機が重なり、各地域での人道状況は急激に悪化しています。

希望ある未来を確かにする事の重要性を訴えています。「彼らが成長し、やがて結婚し、子どもを育てる時が来ても、次の世代にもトラウマが引き継がれていきます。私たちはそれを多くの地域で目の当たりにしてきました。ワールド・ビジョンの役割の一つは、そうした連鎖を断ち切ることなのです」



栄養支援を受けるシリアの親子

朝目覚めることさえ当たり前でない日常

ワールド・ビジョン中東・東欧地域責任者エレノア・モンピオは、地域の子どものために、朝、目覚めることさえ保障されていない現実があると語ります。当たり前の暮らしがある日突然変わってしまう子どもたち。こうした「失われた世代」、そしてその先の世代に対して、負の連鎖を断ち切り、

国境を越えて広がる危機

中東情勢の混乱や、ホルムズ海峡をめぐる緊張は、石油やガスなどエネルギー資源にとどまらず、食料や農業に不可欠な肥料などの運搬にも影響を及ぼします。とりわけ、海外からの供給に依存する国々では、人々が食料危機に直面するおそれがあります。



アフガニスタンでは、これまでイランなど近隣諸国からの輸入に食料を依存してきました。情勢緊迫により、食料価格が高まり、すでに370万人の子どもたちが深刻な栄養

失調に苦しむ状況が、さらに悪化しつつあります。ワールド・ビジョンは、すべての当事者に対し、直ちに敵対行為を緩和し、恒久的な平和に向けて取り組むことを強く呼びかけています。

レバノンの子どもたちの願い

レバノンでは、空爆が続き、3月の時点で、国民の約20%の100万人が避難する事態になっています。そのうち30万人は子どもです。ワールド・ビジョン・レバノンは、3月31日までに、5万人以上の子どもを含む約15万人に支援を届けました。温かい食事、毛布やマットレスと寝具、調理不要の食品、衛生キット、冬物衣料やストーブといった防寒キットなどの提供とともに、子どもたちや家族への心のケアや生活面のサポートも行っています。



防寒具を受け取る子どもとWVスタッフ

もし避難バッグに入れられたら何を入れたかった？

避難所に身を寄せることを余儀なくされたレバノンの子どもたちの声に耳を傾けました。

- レバノンの子どもたちの声
- おもちゃ
- “安全”を入れたかった
- やさしさ... それからお母さん
- “故郷”を持っていきたくかった。自分と一緒に守るために
- 絵を描く道具

子どもたちは、今この瞬間も、危機の中で、明日を見い出そうとしています。

中東の緊張の高まりが影響する アフガニスタンの子どもたち

人道・開発事業第3課 課長 伊藤真理

中東地域における緊張の高まりは、国境の往来や物の流れを滞らせ、食料や生活必需品が手に入りにくくなるなど深刻な影響を及ぼしています。こうした出来事は、日本にいる私たちにとっては一見遠くの問題のように感じられるかもしれませんが、しかしアフガニスタンでは、すでに困難な状況にある中で、子どもたちの日常にさらなる影響が広がっています。

ワールド・ビジョンの最新の調査からは、国外からの強制的な帰還によって送金（仕送り）が途絶えた家庭が、急速に厳しい状況に置かれていることが明らかになりました。送金は、多くの家庭にとって生活を支える大切な収入源です。それが止まることで、食料の不足や借金の増加、資産の売却、子どもの教育の中断など、深刻な影響が広がっています。影響は家庭にとどまらず、地域の支え合いや日々の暮らしにも広がっています。

私自身、3カ月半にわたりワールド・ビジョン・アフガニスタン事務所（西部ヘラート州）への業務応援派遣として、1カ月は現地、残りは日本から遠隔で関わりました。現地で聞いたのは、干ばつの中、5歳の子どもがロバに乗り、5~6時間かけて20リットルのポリタンクの水を運ぶ現実でした。

一方で、厳しい制約や限られた資金の中でも、支援を途切れさせないよう試行錯誤を重ねながら活動を続ける、女性の同僚たちや診療所で働く女性スタッフの姿もありました。粘り強く支え続ける姿が印象に残っています。ニュースでは見えない、こうした一つひとつの営みが日常を支えているのだと感じました。



荒涼とした大地（水源視察）

ワールド・ビジョンは、アフガニスタンでは2001年以降25年にわたり活動を続けてきました。状況が大きく変わる中でも、その都度最善を考えながら、現地にとどまり続けてきました。

それは決して簡単なことではありませんが、子どもたちと地域社会のより良い未来を目指し、歩みを止めることなく取り組みを続けています。



困難な状況の中にあっても、人々の暮らしは続いています。日々をなんとか支えながら、前に進もうとする姿があります。現地の同僚たちもまた、その一步一步を支え続けています。その姿は大きく報じられることはありませんが、確かにそこにあります。

こうした活動が続けられているのは、日頃より支えてくださっている皆さまのおかげです。皆さまのご支援が、アフガニスタンの子どもたちとその家族の暮らしを支え、未来へとつながっています。改めて心より感謝申し上げます。



筆者（写真右、給水施設視察）

子どもが、安心して眠れる家。それを守るのが大人でした。 その当たり前を守ることが叶わなかった家族がいます。



中東シリアの今

戦闘の最前線だったシリア北西部では、住宅や学校などの公共インフラが壊滅的な状況にある。全土では約8,000校の建物修繕が必要だが、資金不足により再建が進まず、学校再開の見通しが立っていない。245万人の子どもたちが今も学校に通えずにいる。

住み慣れた家も、安心して眠れる夜も 一瞬で失われてしまうのです。

ヤメン君のお母さんが臨月のとき、近所で爆撃が起きました。設備の整わない病院で予定日より早く出産。生まれた際に脳へ十分な酸素が届かず、下半身に障がいをもって生まれました。移動の際は、兄のカレド君が背負っています。



兄に背負われて移動するシリアのヤメン君(仮名)。



損傷し、使われなくなった教室（シリア北西部）

新学期の朝、ある村の壊れた校舎の周りに子どもたちが集まってきました。「もしかしたら学校が始まるかもしれない」と期待して、先生が来るのを待っていたのです。しかし、先生は現れませんでした。3日目の朝、子どもたちは諦めて学校へ来なくなりました。

子どもたちの未来は、守ることができます。

学びの支援

爆撃等で損傷した学校を、障がいのある子どもたちにも配慮して修繕します。教育の大切さや、子どもたちの通学や安全を守るための話し合いを促して、地域ぐるみで安全な学校づくりを目指します。



心と体を守る支援

爆撃や厳しい避難生活を経験した子どもたちへの心理社会的支援や、必要に応じて医療や法務等の専門機関と連携できるような学校を支援します。また地域のリスクマップを作成し、不発弾等の危険から身の安全を守る啓発活動を行います。



渡辺スタッフ

最前線スタッフが見た、子どもたちの今 写真：渡辺スタッフ

学校に行けない男の子は10歳を過ぎるとやむなく働いて家計を支え、女の子は10代の早いうちに結婚させられることがあります。シリアでは「子ども」でいられる時間はとても短く、子ども時代の1年は日本で想像する以上に貴重なものです。子どもたちが勉強を再開できるよう、ぜひお力をお貸しください。

【難民支援募金】
はこちらから



イベント開催報告
REPORT

チャリティラン&ウォークイベント GLOBAL 6K FOR WATER 2025



**日本で歩いて走った287人が、
命の水の重みを体感。**

GLOBAL 6K FOR WATER 2025 は、多くの皆さまのご参加とご支援により、昨年 10 月 25 日に開催されました。心より感謝申し上げます。参加費の一部（30%）はケニアなどでの水支援へとつながり、子どもたちの生活を支える力となりました。参加者からは「意味のある 6km だった」「水問題を自分ごととして感じられた」という声が寄せられています。体験することで、“知る”が“実感”へと変わる機会となりました。

この取り組みは日本だけでなくアジアへと広がり、6 カ国合計で 24,420 人が参加、約 105 万米ドルの支援が集まりました。参加者が歩いた距離は 273,661km、地球およそ 7 周分に相当します。日本からの一歩も、この大きな輪の一部となりました。

数字で見る、昨年の成果

アジアで広がる 6km の輪



規模を拡大して、今年も GLOBAL 6K FOR WATER 2026 を開催します！



2回目となる今年にはアジア 5 カ国との共同開催で、さらに多くの仲間とともに挑戦します。同じ思いを持って歩くことで、途上国の子どもたちが水汲みに費やしている時間に思いを寄せ、「遊びや学びの時間」を守ることに繋がります。一人が歩く、走る距離は小さくても、その一歩が重なれば、大きな力になる。あなたの 6km が、誰かの「水のある日常」につながります。



GLOBAL 6K FOR WATER 2026 開催概要

日時 2026年10月18日(日)
場所 豊洲公園・花木とモニュメント広場(東京都江東区)
参加方法他、最新情報は随時、ワールド・ビジョンホームページでご案内します。以下の QR コードからご覧いただけます。

アジア 5 カ国 共同開催

今年は 3 月 22 日（世界水の日）の台湾を皮切りに、韓国、日本、シンガポール、香港へとつながります。国を越えて、水問題への関心と支援の輪を広げていきます。

参加費の30%を 水事業に

参加費の 30%は、ケニアで実施する水事業の実現のために届けられます。安全な水を届ける取り組みに、直接つながるアクションです。

どなたでも 参加できます！

走るだけでなく、歩くだけでも参加できます。家族と、友人と、学校や職場の仲間と。それぞれのペースで、意味のある 6km を体験できます。

GLOBAL 6K FOR WATER 2026 の最新情報はこちらからご覧いただけます。



チャイルドの「今」を、あなたの毎日に。 新サービス「MY CHILD」が始まりました



チャイルドの成長や、支援地域の変化をより身近に感じていただける、チャイルド・スポンサーの皆さまのための新サービス「MY CHILD(マイ チャイルド)」が始まりました。「MY CHILD」は、スマートフォンやパソコン、タブレットから、チャイルドの最新の写真や動画、手紙や成長報告などをいつでも見ることができ、これまで以上に、チャイルドとのつながりを感じていただけます。さらに、支援地域の様子や現地の情報・文化もあわせて知ることができるため、チャイルドが暮らす環境への理解もより深まります。



画像はイメージです

「今」が届く、リアルタイムのつながり

チャイルドの情報や地域での活動の様子などは、現地スタッフによってシステムに登録され、更新があるたびにメールでお知らせが届きます。遠く離れていても、チャイルドの「今」をタイムリーに感じられる——そんな新しいつながり方が生まれます。

メッセージのやりとりを、もっと気軽に

「MY CHILD」では、オンラインでメッセージを送ることができます。日本語での入力や写真の添付も可能で、これまでよりも気軽にチャイルドへ想いを届けていただけるようになりました。また、送ったメッセージがどこまで届いているか（現地事務所に届いたか、チャイルドに渡されたかなど）を確認できるため、安心してご利用いただけます。

「MY CHILD」のご利用には、新規登録が必要です。ぜひこちらからご登録ください。
※MY CHILD は、各種お手続きサイト「マイ ワールド・ビジョン」とは異なるサービスです。



“人生の証”を、未来につなげる ご存じですか？遺産や相続財産を寄付することができます

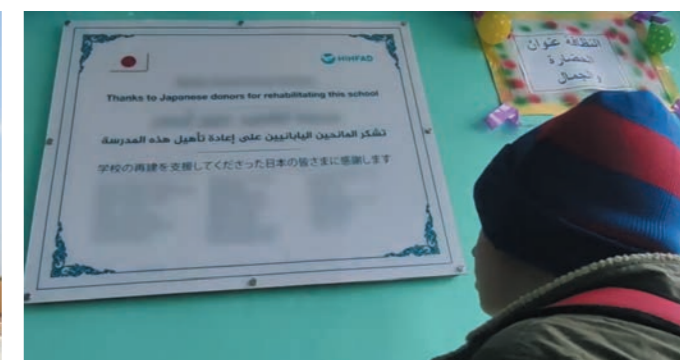
「遺贈」は、遺言によって遺産の一部またはすべてを、特定の個人や団体に無償で譲与することです。また故人のご遺志を受け継いだ相続人が、相続財産から寄付することもできます。ワールド・ビジョン・ジャパンでは 20 年以上にわたり、これらのご寄付をお受けしています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの特長

- 1 金額は自由です。**
遺贈寄付という大きな金額でなければならないと思われる方もいらっしゃいますが、いくらからでも可能です。
- 2 包括遺贈・現金以外（不動産、有価証券など）の遺贈もお受けします。**
ただし、遺言内容や資産の換価が困難な場合など、お受けできないケースもあります。遺言書作成前にご相談ください。
- 3 相続税の優遇措置の対象です。**
ワールド・ビジョン・ジャパンは「認定 NPO 法人」のため、相続税の申告期限内にご寄付いただいた場合、原則としてその寄付額には相続税が課税されません。
- 4 ご寄付を“形”に残せます。**
故人のお名前を、感謝状やプレート等の形で記念に残すことができます。またご寄付によって実施した支援内容について、ご遺族や遺言執行者にご報告することもできます。



「マイルストーン・プロジェクト(1口100万円)」により修復されたシリアの学校。ご相続を機に、多くの方にご寄付先としてお選びいただいています



修復後の校舎に設置された記念プレートを見つめる男子。故人のお名前が刻まれた場所で、子どもたちの未来が育まれています（プライバシー保護のため、画像を一部加工しています）

ご支援者の声



「叔母からの遺産を相続することになり、教育熱心だった叔母の想いを実現するためにワールド・ビジョン・ジャパンに寄付することになりました。途上国の子どもたちの教育支援事業のために活用されることになり、叔母も私たちも、とても満足しています」(Sさまご夫妻/80代)

大切な財産を世界の子どもたちのために役立てるため、ぜひワールド・ビジョン・ジャパンにお手伝いさせてください。まずは、お気軽にお問合せください。

TEL: 03-5334-5355 (平日10:00-17:00)
Eメール: donation@worldvision.or.jp

「ワールド・ビジョン・サマースクール 2026」参加者募集中



昨年のサマースクールの様子。定員を大幅に上回るお申し込みをいただきました

ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) は、幅広い年齢層を対象に「グローバル教育」を実施しています。教育機関が展開している総合的な学習（探究）や国際理解教育、SDGs 学習等とも連携しています。

毎年夏休みには小学生親子を対象に、世界のことを知り・考える参加型イベント「ワールド・ビジョン・サマースクール」を開催しています。バーチャルツアーでケニアの子どもたちに会いに行くオンラインイベント、『世界がもし 100 人の村だったら』（教材：開発教育協会）や「水汲み体験」ができる対面イベント、いずれも自由研究にぴったりの内容です。

夏休みにお子さまと一緒に世界に目を向けてみませんか。皆さまのご参加をお待ちしています。また、ご関心のありそうな方にぜひご紹介ください。

開催概要

オンラインイベント

7月28日(火) 10:00-11:30 **1-3年生** 定員：親子50組

7月28日(火) 13:30-15:30 **4-6年生** 定員：500名

対面開催

【中野区】会場：中野坂上ハーモニーホール

7月31日(金) 14:00-16:00 **4-6年生** 定員：50名

8月1日(土) 10:00-11:30 **1-3年生** 定員：親子50組

【文京区】会場：LMJ 東京研修センター

8月6日(木) 14:00-16:00 **4-6年生** 定員：50名

8月7日(金) 14:00-15:30 **1-3年生** 定員：親子50組

8月8日(土) 10:00-11:30 **1-3年生** 定員：親子50組

いずれも参加費無料

後援：文部科学省、文京区教育委員会、中野区教育委員会（申請中）

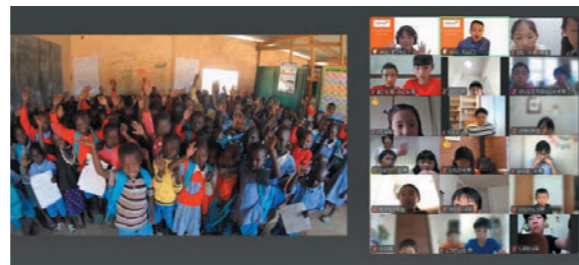
対面開催の回は申し込み多数の場合、抽選となります。

詳細：お申し込みは右記 QR コードから

申し込み締め切り：オンライン開催 7月21日(火)、対面開催 7月6日(月)



「水や食べ物があること、学校に行けることが当たり前ではないと思った」などの感想が参加者から寄せられました



オンライン開催ではケニア駐在スタッフと一緒に学校やお家を訪問します

思いが井戸になった日

書籍『般若、井戸を掘る』で紹介されたワールド・ビジョンの活動



ワールド・ビジョンの活動が、書籍『般若、井戸を掘る』で紹介されました。日本を代表するラッパーでチャイルド・スポンサーでもある般若さんが、MC バトルの賞金を子どもたちのために寄付しようと思った思い、ワールド・ビジョンとの出会い、カンボジアで井戸づくりに取り組んだ経験が綴られています。ご寄付により、カンボジアのトモ・プオ地域では給水アクセス改善事業が実施されました。現地で目にされた支援のピフォーアフターや、子どもたちとの出会いを通して感じたことが、まっすぐな言葉で語られています。誰かを思い行動する力に、支援者の皆さまもきっと共感される一冊です。WVJ スタッフによるコラムも掲載されています。ぜひお手に取ってご覧ください。

『般若、井戸を掘る』著者：般若 出版：流星舎

発売：2026年4月24日 240ページ 1,870円



支援地訪問ツアーのお知らせ “地球あちこち～ネパールを知る旅” 編

支援地訪問ツアーを、ネパールの地で実施いたします。支援が行われている地域への訪問を通して、現地の状況や支援の成果をご確認いただき、また、チャイルドと会って豊かな時間をお過ごしいただければと思います。今回はバンケ・ジャナキ地域と西ドティ地域を訪問します。

※バジャン地域は悪路のため車での移動が難しく、訪問いたしません。

期間：2026年10月31日(土)～11月7日(土) 8日間

最小催行人数：15人(定員：20名予定)

※日程は変更の可能性があります。※参加はチャイルド・スポンサーとご家族に限らせていただきます。

※訪問国の治安状況等により、ツアーが中止になる場合があります。詳細は決まり次第、ホームページやEメールでご案内いたします。



クレジットカードの登録情報変更はありませんか

クレジットカードの有効期限は、決済代行会社を通じて自動更新されない場合があります。カードの有効期限が近づいている場合や、新しいカードへ変更された際は、カード情報のご登録をお願いします。クレジットカードが決済エラーとなり、ご支援が止まってしまった場合は、こちらからご連絡させていただいております。お手続きは、「マイ ワールド・ビジョン」、お電話、または書面（郵送）にて承っております。

Web [マイワールド・ビジョン 送金履歴の照会/クレジットカードの登録情報の変更はこちら](#)



電話 **0120-465-009**
(9:00～23:00)

住所・電話番号・メールアドレス変更はオンラインで簡単

チャイルドからの手紙や成長報告、領収証などの大切な郵送物をお届けするため、登録情報に変更があった際は、お早目にお知らせください。お手続きは、「マイ ワールド・ビジョン」またはお問い合わせフォームから簡単に行えます。

Web [マイワールド・ビジョンはこちら](#)



お問い合わせはこちら



電話 **0120-465-009**
(9:00～23:00)

世界に思いをはせて Vol.18. 事務局長 中島みぎわ

先日出張から帰り、いつものように玄関のドアを開けたとき、ホッとして気が抜けるとともに、「帰る場所がある」ことの意味をふと考えました。紛争や災害によって住み慣れた家を離れざるを得ない難民や国内避難民は現在世界で1億2,320万人以上とされています。その数字の裏には、本来、家族と暮らし、地域の中で生活を送っていた一人ひとりの人生があります。「帰る場所」を失うこと、明日の見通しが立たないこと、子どもが安心して学校に通えないこと、将来の夢を描きにくいこと。私たちが当たり前と思っている日常は、実はとても尊いものなのだ改めて気づかされます。そのような状況の中でも、学びたいと願う子どもたち、家族を守ろうと努力する大人たち。皆さまからのご支援は、そうした人々にとって必要な助けであると同時に、「自分たちは忘れられていない」という希望のメッセージにもなっていると感じた出張帰りでした。



中島事務局長とワールド・ビジョン総裁アンドリュー・モーリー